

日六月三



定額一ヶ月五拾圓 郵費別
廣告料五拾圓 行金五拾圓
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常警日新新聞社
電話 六二〇
印刷所 常警日新新聞社

『おまけ』の心理

一 讀者

(三)

ところがこゝにいふおまけは始めからちやんと計算に入れておまけでこれこれのおまけを入れてもこれこれになれば十分に儲かるといふ算盤を持つたおまけである、これでは本當のおまけではないおまけに託して人に好意を賣りそして自己の實益をはかるのであるつまりおまけを喰ひ物にしたおまけである、買ふ方ではおまけと心得て何んだか意外の得をしたやうな心で買ふとすればその心を利用して多く買はせ實は始めからちやんと採算のとれるやうに仕組んでやつた仕事である。

然らば一寸おまけを致しますといけやうな好意心をだして客を釣つて儲けるのであるからこれ又世道人心を害する商策と稱すべきである、小さな子供の如きは何か知らないからおまけといふので大喜びし田舎の單純の人もおまけといふので大悦びしそして實は餘計のものをもらひたがる根性を自己に助長しつゝあるといふ害毒をみづから受けつゝあるわけであるが同時

にかやうな單純な人々をかゝる方法を以て欺くが如き商術は世道人心を益するものではない、よくインチキといふことが云はれるが、かゝるところに道徳的インテキの行はれるのは誠に感心に堪えない。

ノット

薄板に穴をあける時は錐の先に水をつけると割れないキルクを切る時も水に濡すと切りよい

今商賣の上からしておまけの心理を述べたが實は道ならぬところに何物かを利得しようといふ根性いひかへれば附かなくてよい筈のところは附くことを喜ぶ根性はいろ／＼のところにある、その大なる他の現

明日の献立

【朝】みそ汁：さつまいも
【晝】五目よせなべ：鶏卵 きくらげ 人参 みつば
【晩】金びら煮：糸こんにゃく きんぴら煮

象は政治上の事柄に多い、中にも選挙についてはこの心理状態が盛んに應用され

今度左の様な献立一寄りましてせいで、お氣に召します様に勉強致します。何卒御尊來御試食の程伏して御待ち申上げます。

水たき 御一人前金五十錢 二人前ヨリ
鯛茶漬 御一人前金五十錢
料理四品酒一本付 金壹圓

割烹旅館 住吉屋本店 電話一五九番

専門 産婦人科 花柳病科

井坂醫院 平町田町 電話五五九番

夜九時まで

御預り倉出し致します

旭屋一六銀行 電話四二五番

吉田眼科病院 平町星町、電話六八番

旭硝子株式會社製品 赤菱印 板ガラス

製造販賣 硝子食器 其他各種

松崎硝子製作所 平町新川町(電話一四二番) 支工場 仙臺市榮町(電話五九七番)

平新川町十九 木村病院 電話一六四番

産婦人科 院長 木村寅次郎
婦人科 醫學士 内木宗八
内臓外科 整形外科 器泌尿科

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

大和田醫院 平南町(電話一七〇番)

花柳科専門

木村外科醫院 平町五丁目橋際 電話三〇九番

月曜是非

校舍増築案の
國庫負擔

第四小學校敷地の手金買ひは過般の町會に於いて圓滿議決をみるに至つた、一面からみるに無理算段の非常手段ではあるが財政難の折柄、無い袖を振つても町民の輿望に添はんとする町當局の誠意は充分に肯定が出来る。

殊に學校の敷地ばかりでなく、併せてグラウンド建設を前提とし買収面積一萬五千坪を算して將來に備ふる處あるの遠大な抱負は、全く財政難を超越して、無い袖を振る妙味を充分に示し得て快采を叫ばざるを得ない。

而し此の血の出る様な涙ぐましい遣り繰りをみるにつけ、獨り平町のみならず郡下各町村に於いても今後人口の増加と共に校舍の増改築等に依つて累年負擔が益々激増して行くことを思はねばならぬ。

是れを此儘放任する時は町村の財政は益々危殆に瀕せしむるのみでなく、機會均等であるべき義務教育がその町村の財政状態の如何によつて懸隔が愈々甚だしくなり、貧弱な町村では、校舍の狹隘腐朽を告げて教育上の不便を招き、憂慮に耐えぬ事態を醸すに至らぬとも限らぬのである。

故に各町村ともこれら均等の機會に浴して、義務教

育の向上を關する事が地方財政の緩和に緊急の要務である以上、校舍の増改築費はその半額以上を國庫より支給するの補助法を制定すべきである。

敢えて忍ぶべき責任がある石城町村長會はよろしく此点を考慮して、一大請願運動を起して、負擔の軽減を圖り、その財政を緩和して義務教育の徹底を期すべきであらう。

歌留多決勝

今曉一時に及ぶ

優勝者の顔ぶれ

既報平歌留多會主催第二回關東北歌留多大會は昨五日正午より藤田女學校に開會各地一流の選手三十名参加して覇を競ひ決勝戦は今曉一時に及ぶ接戦を演じたが一等は遠來の水戸横瀬福三郎氏が獲得した、當日の成績左の如くである

- 一等 横瀬福三郎(水戸)
- 二等 上村 仲藏(東京)
- 三等 宮下 茂小名濱
- 四等 織内 正(好間)
- 五等 福田 隆精(同)
- 六等 根本 十郎(同)
- 七等 太田 孝一(同)
- 八等 河田 正樹(平)

川前から川内へ

林道の開鑿工事

附近は薪炭材が豊富

石城郡川前村では同村より双葉郡川内村に通ずる一里半の林道開鑿工事を企圖し永山助役は去る五日出縣當局に運動を行つたが林道附近は縣下有数の薪炭材の産地である

磐中の
卒業生

明日卒業式

青木信夫 赤津清 ◎赤津

- 千町 赤間正壽 ◎秋山豊
- ◎安島肇 會田芳一 阿部兼千代 阿部喜八郎 阿部清太郎 阿部卓造 阿部守男 ◎荒川忠明 新田目五郎 安藤鐵雄 五十嵐一行 ◎猪狩不二雄 石井定三 ◎石川喜義 伊藤巖 ◎伊藤一人 植野勻 江尻清修 江連典兒 海老根英夫 遠藤造 遠藤角之助 遠藤和久 ◎遠藤清己 遠藤六郎 大内謙三 ◎大井川義夫

- 大越重義 大須賀章 大竹正治 大谷勝彦 ◎大谷武大平信一 大平純一 大平行之 大平光夫 大平幸男 大平謙 大和田久明 小川政良 荻善正 荻野勝一 ◎小野守久 小野徳太郎 小野善久 片寄正三 片寄壽也 上遠野猛義 金成忠男 ◎金子純一 神谷正典 川島誠司 ◎川島令司 ◎木田茂 木田清吾 北郷新三郎 君塚安雄 ◎木村財治郎 木村友重 草野一郎 草野大治 草野英 草野文雄 草野光雄 鯨岡善政 國井正武 ◎國玉喜輝 熊井幸一 黒木汎 小泉毅 一 小泉虎雄 ◎國府田元良 國府田保良 胡口龍三 ◎小見三郎 ◎齊藤勝恵 ◎齊藤鐘次郎 ◎酒井幹雄 佐川浩平 ◎佐川美清 坂本文彦 ◎櫻山信男 佐藤清 佐藤正義 ◎志賀勤 志賀充 四家治郎 雫石光資 篠崎伸衛 ◎柴田忠倫 島田禮二 下山田勇 庄司昇 ◎白土丑之輔 白土三郎 ◎須藤清 砂田實 鈴木功 鈴木清 鈴木至郎 鈴木仁 ◎鈴木信一 ◎鈴木辰一 ◎鈴木武 ◎鈴木忠 鈴木正 ◎鈴木寛 ◎鈴木保治 高岡博 高木一郎 高木幸三 高田七郎 ◎高田正之 高秋光雄 竹澤五郎 竹水勇次 竹本邦明 ◎立枝勝美 田中純一 田中芳雄 丹野五郎 築館光夫 鐵正三 戸井田元勝 ◎戸井田彦若 富岡甲皇 富岡信吾 富田行雄 豊田章 ◎内藤正直 中川勝己 永久保良平 中島向正 中島善夫 ◎長瀬順平 ◎中野竹義 中村浩 永山憲太郎 西村三郎 ◎西脇健吉 根本馨 根本清満 根本越 ◎野木啓治 野木茂 野木洋助 野口一磨 ◎野崎弘 芳賀正康 ◎箱崎遠平 箱崎昌雄 橋本勇長 谷川周彦 平澤安男 蛭田仁 藤森一夫 ◎船生泰治 蓬來信浩 正木芳夫 ◎増尾善則 松崎一美 松崎長十郎 松永政治 松房政之 眞根井孝門 丸山五郎 ◎萬歳一夫 三浦正松 水野茂松 水野谷勝雄 宮川重敏 ◎三好彌太郎 村上正吉 最上五郎 ◎森笠基族 矢島久司 ◎矢吹一徳 矢吹勇平 柳井正司 矢内忠一 ◎山崎吉二郎 山名隆之 横山昇 吉田遠平 吉田正三 ◎吉田忠男 ◎吉田源助 吉田毅夫 吉田好實 吉田和允 四倉武久 米本恒久 若松陽一郎 渡邊喜四郎 ◎渡邊恭平 渡邊精 渡邊廣 渡邊松久 渡邊好 渡邊正記 ◎印ハ 畢業操行優良生徒、★ハ 在學五ヶ年間正副組長勤続生徒、○ハ 在學五ヶ年間精勤生徒

平町農會

事業計劃

總代會を開く
平町農會では来る十二日午後一時より役場會議室にて總代會を開き本年度豫算並に事業計劃等に就き協議を行ふと

平町人

結婚 姻
△白銀町一四 當時東京市下谷區山伏町一四 篠田常次郎(三八)紺屋町佐藤チヨ(三一)
回死 亡
△白銀町一三 勝見藤太郎(三六)
△紺屋町四 加藤喜子(三)

磐中同窓生各位ニ

明七日午前十時本校第三十三回卒業式舉行可致ニツキ御參列相成リタク紙上ヲ以テ御案内申上候
昭和八年三月六日

福島縣立磐城中等學校

体温の検査日です

お宅の体温計は？
正確な体温計を御利用下さい
毎月十日の検査日を御利用下さい
計量器指定販賣所 西村屋藥局
電 三番

三井タクシ

電話八五番

われ等の凱旋將軍

多門閣下を迎へて

明日歓迎會席上に於ける 青沼町村長會長の歡迎文

既報愈々明七日午前十時三十分平驛着列車にて來平する多門師團長の歡迎會は同日午後三時半より第二小學校庭に開かれりが席上青沼平町長が町村長支會長の資格を以つて朗讀する歡迎文左記の如くである

本日茲に滿州駐劄の大任を全し赫々たる武功を擔ひ英名を中外に輝かされたる吾第二師團長多門將軍閣下の凱旋を迎へ本郡官民多數各位と共に歡迎

得たるは不肖の最光榮として洵に欣快とする所なり惟ふに滿蒙は我帝國の生命線にして之を確保するは國防上方に帝國當然の權利なりとす抑も滿州は曩に日露の大戦に於て忠誠勇武なる十萬の生靈と二十有億の國帑とを犠牲とし國家の存亡を賭して以て鼻露より奪還し東洋平和のため之を清國に附與したるは世界各國の普く知る所なり然るに近時暴戾なる中華民國は帝國の恩義を忘れ國際信義を無視し侮日抗日の暴舉を敢てし我同胞居留民に慘害侮辱を加へ爲に帝國

の權益は將に蹂躪せられんとするの

亡狀を極めたりと雖も帝國は努めて善隣の情誼を盡し國際信義を重し東洋平和の爲に隱忍自重以て彼の反省を待てり而も彼は更に省みる所なく我帝國全國民の憤激其極に達し滿蒙の暗雲低迷風雲急を告ぐるに至れり時恰も昭和六年陽春四月閣下は

太命を奉し國家の重寄を負はれ第二師團を統率し滿州駐劄の大任に膺らる爾來半歲深謀遠慮大命の奉答遺算ながらん事を期せらる事同時に夙夜士氣振作鍛練に心身を勞し守備の大任に服せらるる際偶々滿州柳條溝鐵路破壞事變の勃發するや閣は命令一下直に部下を率ひ敵を北大營に襲撃し更に疾風迅雷の勢を以て勇戰奮闘皇軍の威武滿蒙の天地を壓し敵の心膽を寒からしむ爾來湖北の曠野に奮戰健闘克く酷寒に堪へ酷暑を冒して困苦

欠乏を忍び朝に堅城を屠り夕に鐵壘を陥れ遂に匪賊を殲滅し今や滿州新國家の建設を見るに至れり我

基礎を強固ならしめたる其戰闘の烈勳功の偉大なる未だ其の比を見ず帝國民の感謝感激措く能はざる所なり更に閣下は國際政局の前途多事多難なるべきを想ひ何れの日再び敢然として起つの準備と休養に過ぎずとし部下將士に對し無言の凱旋なりと訓示せられたるは誠に崇敬欣幸の念に禁せず果せるかな今や我國論を無視し帝國の正義を認めず滿州新國家の堅實なる發達を妨害するが如き

閣下の御健康を祈りて止まず特に今回本郡出征軍人戦死者の靈を慰め其遺族に對し懇篤なる慰問の辭を賜りたる温情を拜し誠に感泣に堪へざるなり本日特に閣下の貴臨を辱ふしたるも酒肴菲薄固より杯酒を俯め慰むるに

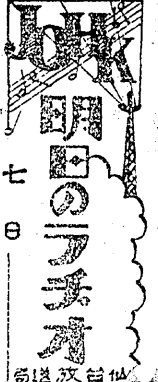
足らずと雖も希は微意を給はらん事を敢て不文を願ひ謹みて歡迎の祝意を表す

春衣の金を

震災地へ寄附

石城郡内郷村大字内町字住田三六居住市川ヨシ子(八)

は本日同村巡查部長派出所に出頭し三陸地方震災民救助の爲めにと金四圓寄附したが同寄附金は賃仕事をして春衣を買ふべく用意され



明日の天気予報

今晩は北西の風時曇半し明日は北の風大體晴れ海上荒れ模様

- #### 今晚の部
- 後六、〇〇 子供の時間 童謡〇景「かんきーかんきー」HK子供會
 - 後七、五〇 講演「産業組合に就て」農林政務次官 伯耆有馬頼寧
 - 後八、一〇 室内樂 鈴木クワルテット 第一バア

- #### 明日の部
- 前九、一〇 料理献立「豚肉の棒天」宇多繁野
 - 前一〇、三〇 家庭講座 後〇、〇五「滿州より」錦州より中繼
 - 後二、〇〇 家庭大學講座 「國文學を通じてみたる日本の女性」五池田龜鑑
 - 後五、三五 少年少女職業指導講座「タイピストになるには」竹内甚一

櫻樹の天狗巢病

豫防實演會開催

平營林署では本縣山林會と協力して來る十日より十六日迄の山林愛護週間中の催しとして十二日午前九時より平町に於て櫻樹天狗巢病驅除實演會を催し翌十三日午後一時よりは植田小學校に於て講演會を催す筈

となり田畑の回收を始めたので小作人間では是れに反對して代表者が再三平署に陳情して居るので其成行を注目されて居る

勿來女青總會

郡勿來女子青年團にては本日午後一時より同町小學校に總會を開き磐城高等女學校長正木貞二郎氏の有益な講演あり聽衆を感動せしめ

八十五圓遺失

郡好問村字好問牛肉商大橋友太郎(四)は五日午前九時頃賣上金八十五圓を持つて平町へ自轉車を飛ばしたが途中で右の金を落した事に氣が付き青くなつて平署に届出た

平職業紹介所報告

求人を求める方

- △雜夫 二十五才迄 尋卒 給料面談(小名濱町某)
- △豆腐賣子 四十才 尋卒 賣上の二割(双葉郡某)
- △農夫 三十五才迄 年七 十圓位(高久村某)
- △女中 二十以下 尋卒 月五六圓好(間村某)

回職を求める方

- △旅館番頭 三十七才 商業卒 給料面談(靜岡縣某)
- △雜夫 三十五才 尋卒 給料面談(平町某)
- △菓子職 四十九才 高卒 給料面談(田村郡某)
- △事務員 三十三才 商業卒 給料面談(平町某)

上田外科醫院

平町 南町 電話一二九番

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉演
近藤 紫雲畫
佐々木 見山

第二百八十三席

殿様の夜齋賣り

夜そば賣りの長兵衛こと異名瘤長、これが有馬の殿様にそばをこしらへる事を教へる、そばをこしらへると申しても畑へ種をまきして作るわけではない、そばの調理方を教へる

長「殿様よく見ておいでなさい、これはそばの玉でございませう、これをこの籠の中へ入れます、この籠の事を鐵砲籠と申します、鐵砲の筒のやうに細長く圓く出来てゐます」

殿「ハ、ア成程、それで鐵砲籠と申すか」

長「左様でございます、この中へこのそばの玉を投げ込んで此處にある銅壺の湯の中へつけます、湯がグラ／＼湧いてゐなければ出来ません」

殿「グラ／＼わくとはどういふ事をさして申すか」

長「銅壺の中で湯が踊つてゐるやうにわいてゐなければうまく出来ません、それもね長くつけて置くとそばの形が崩れてそば掻のやうになります、それですからズーツと突き込んで直に上げて、ポント／＼と湯を切つてしまひます、それからこ



の井へ移して汁をかけます汁をかけたならば割箸をのせて、へエお待遠さまと慥う云つて出します、そばを井へ移した時に、こゝにある花がつををバラバラとかけます、はなかつをといふ

の事だ」殿「ハ、ア猫の食料を人に食べさせるか」長「まあそんなもんでございませう、ところで種物を注文されたならばその品物は出来てゐますから、そいつをあたためてそばの上へつけて出せば宜うございませう」

殿「左様か、しかし長兵衛殿、荷の中へそばを調理してそれを客にすすめたのみでは趣味がない、荷を肩にいたしてりんのおとを立てそばウイと申しながらあれなる築山の後から

子を取つて鳴らすことは出来ませぬ、すべてかつぎものは腰が利かなければいけません、肩でかつぐ様に思はれますがその實は腰でかついでゐるやうなものだ」殿「左様かナ」

長「さあ一つかついでござらんない、荷は重くはねえが腰のきまらぬ内はなかなかかつげないものだ」殿「荷なうてみるであらう」

と荷の天秤へ肩を入れたその上の家屋裏からりんが下つてゐる、前にも申した通り昔の夜そば賣りの荷は家根が出来て居ります、有馬侯は荷はどうやらかついだが、足がフラフラする、よろ／＼よろめきながら七八間擔いで来たが殿「これはいかに、横に荷が觸れる爲に湯も汁もこぼれてしまつたぞ」

は、かつをぶしを削つたもので、こいつはうすく削つて置かなければいけねえ、このかつをぶしだとて土佐の小節を使つては入費がかゝります、そこで猫ぶしを使う」

殿「なんだねこぶしとは」長「猫のたべるかつをぶし

これへ参つて調理いたしたく思う」長「なる程、お大名様の目には珍らしいものと見えませう、しかし殿様、りんが調子よく鳴るまでは五日や六日では覚えられませぬ、こいつは腰がきまらぬ内はチンリンチンリンと悠々調

と調子よくりんが鳴る、有馬侯感しんした。而し長兵衛の出来ることならば予にも出来るであらう、彼も人なり我も人、舜何人ぞやと大名だけにやかましい、此れから一生懸命に荷を擔ぎ泉水の周圍を廻り又そばを拵へて近侍に食べさせる、御家來はそばばかり食べてゐる甚だ迷惑ではあるが君命辭し難く、茲で忠勤勵むところ、お手製のそば一段

風味がよろしう御座いますなぞと追従せして、一生懸命粉骨碎身して食べる、其間に下利を起して来たこれにて死するは戰場討死も同様、それにしても爲まじきものは宮仕へとホトト息した、殿様は熱しんに荷を擔ぎ又そばをこしらへる、習ふより慣るとか、どうやらりんも鳴るやうになり又そばも出来るほどになつた之れにて卒業御家來もこれをみて祝著至極と祝し奉る

御贈答に!!!!!! 漆器を!!!

記念品に!!!!!! 諸景品に!!!!!!

誠實勉強 親切第一 在庫豊富

是非御用命を

ドコヨリモ、ヨイシナラ、ドコヨリモ、ヤスクウ、ル、ヌリモノミセ

平町三丁目北裏(元郵便局裏通り)

各産漆器 専門卸小賣

共 漆器店

店員募集 三十四才位 小 店員 三十才迄位 外 交 員

北海屋の 名産 製米 糯

右發賣致しましたから何卒多少に不拘御用命下さる様御願ひ致します

平二丁目 北海屋製菓部

滋養豊富 味覺佳良ですから 御病人の御見舞に最適品。

●價格低廉 萬人の御口に適しますから一般家庭の御贈答用に最適品。

電話三八八番

毒梅 淋病 皮膚病 婦人病 胃性 腸病

門專 院醫科 松村

十二指 腸虫病

〇七一話電

トモ面白 具玩ナ議思不

大人も子供も白熱的大歡迎

ヨイヨイが來ました

世界的流行玩具 一ケ金 五錢 金 十錢

平驛前 いづみや玩具店